

ツルは縁起が良い?
〜ツルとツルとわかれ〜

マナヅルの夫婦

久留米市鳥類センター

Poppo

ポッポ

マナヅルの越冬

中国やモンゴルに分布するマナヅルは、冬になると日本や朝鮮半島に渡ります。

このように、冬の期間だけ暖かい地方へ移動することを「越冬(えっとう)」と言います。

日本の有名な越冬地は、鹿児島県出水市で、ここにはマナヅルの他にナベヅルなども世界中から渡ってきます。

マナヅルは、毎年10月から2月頃まで日本で過ごし、その後繁殖のために中国やモンゴルへ帰って行きます。



バックナンバーあります!

ご希望の方は鳥類センターまでお問い合わせ下さい。

公益財団法人久留米市都市公園管理センター
久留米市鳥類センター

〒830-0003 福岡県久留米市東櫛原町中央公園内

TEL 0942(33)2895 FAX 0942(33)2896

休園日 毎月第2月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始(12月29日~1月1日)

久留米市鳥類センター

検索



マナツルの夫婦

マナツルは、生涯 同じ相手と「番い（※）」になります。一度番いになると、ずっと生活を共にして子育ても一緒に行います。 ※番い・・・オスとメスがペアになること。夫婦のこと。

① 出会い ⇒ ② 番い ⇒ ③ 巣作り



マナツルの繁殖時期は4月～7月頃。鳴き合ったりダンスをして番いになる。

枯葉や草などを使って巣を作る。

④ 抱卵 ⇒ ⑤ 誕生 ⇒ ⑥ 子育て



1～2個の卵を産み、オスとメスが交代で抱卵する。

約1ヶ月でヒナが誕生する！

夫婦で子育てを行い1年間、家族で過ごす。

とっても厳しい!? マナツルの子育て

マナツルはヒナを熱心に育てますが、成長し若鳥になると態度が一変します。

子供が、親から離れるように攻撃をします。子供は 何度も帰ろうとしますが、強制的に追い払います。

一見、可哀そうに思えますが、これで子供は独り立ちし、親たちは次の繁殖(子育て)ができるのです。

特集動物 マナツル

マナツル

ツル目 ツル科

中国北部やモンゴルで繁殖し、日本や朝鮮半島で越冬(※)します。

川岸や沼地に生息しており、種や木の実などの穀類や昆虫などを食べます。

ツルの中でも大型で、体長(クチバシから足までの長さ)1.2m、翼を広げると2mほどあります。

※越冬(えいとう)・・・冬の期間だけ暖かい地方へ移動すること

ツルは縁起が良い!? ～ツルとことわざ～

ツルは昔から絵画などに描かれるように、日本ではよく親しまれている鳥です。また、縁起が良いものとされており、いろんな「ことわざ」などにも使われています。

つる せんねん かめ まんねん 「鶴は千年 亀は万年」

(意味) 鶴や亀は、とても長生きすることから寿命や縁起を祝うときの言葉



つる ひとこえ 「鶴の一声」

(意味) 鶴は周囲を威圧する甲高い声で鳴くことから否応なしに従わせるような権威者の一言



けいぐん いっかく 「鶏群の一鶴」

(意味) 鶏の群れに1羽だけ鶴が混じっている様子から、多くの凡人の中にいる優れた人の例え。

